



NPO PTPL “ともいき” 便り No.76

平成 27 年（2015 年）5 月 21 日発行

■小満（しょうまん） 5 月 21 日から 6 月 5 日までの節気

緑が鮮やかな季節になりました。都会の真ん中にいても、公園や街路樹の木々の葉がキラキラと太陽に照らされて揺れている様子を見ると、深呼吸したくなってきました。節気は「小満」。「山や野が緑に満ち溢れ、麦刈りのころ」です。

我が家の庭のびわの実が大きくなってきました。緑色ですが、黄色く熟す日が楽しみです。葉も、若緑色の葉がつんつんと出てきて、濃い緑色の葉と混在しています。このびわは、50年ほど前に弟が小学校の給食で食べたびわがあまりにおいしくて、種を持って帰ってきて庭に植えたものです。すくすく育ち、今は3メートルぐらいにまで生長しました。実をつけ始めたのは、10年前ぐらいからです。家を建て直すときも、このびわだけは、残したいとみんなが思っていて、2階へいく外階段に葉が飛び出してしまうのですが、健在です。びわの実は、小さくてぷっくりしていてほんとにかわいい。まどみちおさん（詩人）の詩で「びわのうた」という詩があります。とってもいい詩なので、少しご紹介します。

びわはやさしい 木の実だから
だっこしあって うれている
うすい虹ある ろばさんの
お耳みたいな 葉のかげに

小満の72候初候は、「蚕起食桑」。「かいこ、おきてくわを食む」、つまり、蚕が桑の葉を盛んに食べ始めるころ、とあります。母は群馬県の磯部に戦時中疎開していたそうです。そのときにお世話になったのが養蚕農家で、夜、蚕が桑を食べる音がものすごく大きくて、眠れなかったといひます。そして今もその

音が忘れられないそうです。そして、おやつには桑の実を食べたそうです。私の家の近くにも桑の木があって実をつけますが、公園の木なので実を食べる人はいません。なんかもったいないですね。

(<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2015/> 小満/72 候/初候)

日本の養蚕業は、輸入品におされて衰退していますが、富岡製糸場が世界遺産になりましたから、国産シルクに注目が集まって、また元気になってもらいたいです。

6月1日は「衣替え」です。今は冷暖房完備の快適な暮らしをしている人が多いので、この行事もだんだんすたれていってしまうかもしれません。でも、高校のとき、衣替えして夏服の制服（白いセーラー服）になったときは、すごく身軽になったような気がしました。そして「夏だなあ」って感じました。衣替えは、季節の変化をすごくわかりやすく私たちに教えてくれる貴重な行事だとおもいます。服だけではなく、インテリアや食器なども衣替えしたいものですね。

小満の祭りは、5月30日、31日に秋田で行われる「東北六魂祭」。東日本大震災の復興を祈念して、東北六県の夏祭りが勢ぞろいする祭りです。2011年に宮城県仙台市で行ったのを皮切りに、岩手県盛岡市、福島県福島市、山形県山形市と続いています。ご先祖様から脈々と伝えられている「祭り」で、みんなの心を一つにして復興への大きな力にしていけたら素晴らしいです。6つの祭りは、青森ねぶたまつり、秋田竿灯まつり、盛岡さんさ踊り、仙台七夕まつり、福島わらじまつり、山形花笠まつりです。

先月から始まった FM ラジオの「すとうあさえのともいき暦」。先日2回目の録音をしました。まだしどろもどろですが、がんばってます。その番組のおわりの決まり文句は、「おすこやかにお願いします」です。理事の朝倉勇さんから、いただいた言葉です。みなさま、小満の節気、おすこやかにお願いします。

すとうあさえ (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事)

■ ともいき・ともうみ・ともさち雑感彼是

もっと知りたい、日本。

二十四節気と現代人

日本は一年を通して季節の変化が微妙・多様な、珍しい国です。昔から手紙の書き出しは、季節の挨拶から始まるのが常識でした。私たちは季節の変化を敏感に感じ取り、生活に取り入れ自然と共に生きてきたのです。

では私たち日本人は一年を通じて、どのように季節を受け取り、それを暮らしに生かしてきたのでしょうか。基本になったのは「二十四節気」という暦です。

二十四節気は中国の戦国時代(紀元前 300 数十年ころ)に黄河流域の自然変化を基本に生まれたといわれています。1年12ヶ月を24に分け節気と名づけました。この暦が日本の渡来し、やがて日本の自然変化と整合されて完全に日本化。江戸時代には不可欠の生活暦に定着しました。数千語に及ぶ俳句の季語は二十四節気から生まれた季節の表現語で、世界に例がありません。

また旬の味覚も二十四節気と密接な関係にあり、日本独自のものです。

最近、二十四節気への関心が高まり、さらに二十四節気七十二候と細やかな季節の変化を楽しむ傾向が強まっています。二十四節気は約15日ごとに、七十二候は約5日ごとに自然の姿は移りゆくという見方の表現です。「時は、回帰循環する」という自然観照も日本的な特徴といえましょう。

一年四季から、一年二十四節気、さらに一年七十二候。ますます微妙な自然のうつろいを表現する旧暦は体験から得た生きた科学といえそうです。

科学技術、とくにデジタル技術が進み IT 関連機器が増えるにつれて、人は「自然」との親しみ、共生を求めているのだと思います。

人間自身が自然の一部なので、当然の自覚といえるでしょう。

●詳しくは「ともいき暦」<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/>をご覧ください。

興味深いたくさんの日本人の知恵に出会えます。



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■事務局だより

●本編でもご案内したように、4月よりNPO PTPL理事のすとうあさえさんが進行役の『すとうあさえのともいき歴』(全国32局ネット)がスタートしました。ジャパネスクネットワークという北海道から沖縄まで結ぶFMラジオの全国ネットワーク局でオンエアされています。毎月第3週、4週 水曜日午前5:30から30分(一部地域25分)の放送です。朝早い番組ですが、是非、お聴き下さい。なお、首都圏ならびに大阪圏の一部ではオンエアされませんので、ご了承ください。

ジャパネスクネットワークのサイトです。 <http://www.jfn.jp/>

●中央区立環境情報センター (<http://eic-chuo.jp/>) イベントのご案内
NPO PTPL理事のすとうあさえさんのセミナー(定員20名)が開催されます。
開催概要は以下の通りです。

・タイトル:

行事をあそぼう。季節をあそぼう。～子どもと楽しむ季節のあそび～

・日時:6月6日(土)14:00~15:30

・会場:中央区立環境情報センター研修室

・詳細ならびに申し込みはお電話でお願いします。03-6225-2433

まだ、定員に多少余裕がありますので、ぜひ、ご参加をお待ちしております。

●「ジャパネスク」のサイトならびにフェイスブック「ジャパネスク」をご覧ください。

ジャパネスク <http://japanesque.tokyo/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/japanesque.tokyo>

■お問い合わせは

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-2-18 虎ノ門興業ビル7階

電話：03-6205-7503 FAX：03-6205-7504

Email：info@plantatree.gr.jp